

# こだま



金沢大学附属図書館報“こだま”

<http://library.kanazawa-u.ac.jp/>

第184号  
2014.7

ISSN 0915-8782

## CONTENTS

巻頭言：コーヒーと大学図書館	1
附属図書館の中長期ビジョンと 短期アクションプラン	3
「大日本文教研究院」の表札と暁烏敏座像	4
金大生のための読書案内	6
KULiC-α活動報告／とぼろニュース	7
図書館トピックス	8

巻頭言

## コーヒーと大学図書館



附属図書館長 古畑 徹

今からちょうど9年前、私はアメリカのウィスコンシン州立大学マディソン校に、5か月間、海外研修に出させていただいていた。そこでの毎日は、早朝のバスで子供を大学の幼児教育施設に連れて行き、ついで朝の留学生向け英語の授業に出る。それが終わると9時。すぐにユニオンへ行って1ドルちょっとのセルフスタンドのコーヒーを買い、それに蓋をしたら、そのまま持ってメモリアル・ライブラリーに直行。当時は、本学をはじめ、大概の日本の大学図書館で、コーヒーを持ったまま中に入れるようなところはなかったと思う。借りていた館内の小さなブースで、コーヒーを飲みながら資料に目を通す。きちんと蓋をすれば、まず資料を汚す心配はない。日本の大学図書館もこんなふうになればいいな、と思いつつ、ページをめくったことを覚えている。

本学の中央図書館に「ほん和かふえ。」がオープンしたのは、2010年4月のこと。当時、大学図書館内にリフレッシュスペースとしてカフェを併設していたのは、2008年にスタバを入れた筑波大学ぐらいで、これはけっこう大きなニュースとして話題になった。「ほん和かふえ。」の設置はそれに次ぐものといってよい。そして今や大学図書館への館内カフェの設置はひとつの流れとなっている。今年も新潟大学や山口大学などで館内カフェが新たにオープンした。先鞭をつけたのは筑波だが、流れを作ったのは金沢、といえなくもない。

ただ、筑波大学附属図書館のHPによれば、蓋の付いた飲み物の持ち込みは可であるが、「ラウンジ等の所定の場所」で飲むことという記載がある。これは要するに、「ラウンジで飲め」ということである。本中央図書館にその記載はない。今は蓋付きならば持ち込める大学図書館も増えつつある(とはいえ、紙コップに簡易蓋では落とせば全部こぼれるのでダメ。こぼれない蓋付タンブラーや水筒に入れればOK)が、



私がイメージしていた「コーヒーを持って入れる大学図書館」としては、本中央図書館の方が「さきがけ」のようである。

「コーヒーを持って入れる大学図書館」というのは、その機能に対する発想に大きな転換がある。かつての大学図書館は、図書を保存・保管したり借りたりする場所であった。だから、汚れるリスクを伴う飲み物の持ち込みは全面禁止であり、長時間図書館に居られるような設備やしくみを作る必要もなかった。本を読み、資料を調べていると、のどが渇き、リフレッシュしたくなるのは当然で、家に居ればコーヒーを入れて飲み、リラックスした気分で本を読み、調べものをする。しかし、従来の大学図書館は、図書は貴重な公共物で保存・保管が第一であり、学生がリフレッシュしたければ館外退去、と「主張」してきた。これに対し「コーヒーを持って入れる大学図書館」は、図書は基本的に学生が利活用するもので、それによる汚れ・破損等はある程度やむを得ず、その予防よりも学生が利活用しやすい環境を提供することの方が重要と考える。だから、国立国会図書館や有名私大図書館の一部では、前々から館内に飲食のできる店舗が入っていたが、館内カフェはこれらとは機能が異なることになる。

また、館内カフェと同時にラーニング・コモンズが新設される大学図書館も多い。本中央図書館の場合も、オープンスタジオ、グループスタジオの設置は「ほん和かふえ。」と同時であった。その背景には、これからの大学教育をアクティブ・ラーニング中心にしていこうとする流れがあり、大学図書館は学生たちがそのための事前学習をしたり、実際に討議したりする場として重要になるとの見通しがある。そしてそうになると、学生は大学図書館に長時間居ることとなり、大学図書館もそれに適した環境にする必要が生じる。だから、ラーニング・コモンズと館内カフェが同時に作られることが多いのである。

今、山崎新学長の下で本学が進めようとしている教育改革は上記の方向性にある。全国的趨勢から見て、これは不可逆な流れであろう。そしてこの流れに添った、居心地のよい大学図書館への「改造」が、新図書館長である私に課された使命でもある。今秋には、医学図書館に小さなカフェがオープン予定である。本学の特別支援学校による営業のため、当初は週2日だけだが、次第に拡大できると思っている。ほかにもよいアイデアがあれば採用したいので、学生・教職員を問わず、どんどん案を出してもらえるとありがたい。

最後に、学期期間は学生の頻繁な利用でもっとにぎやかになってほしいが、それが終われば、静かで落ち着いた図書館の方がいい。私が本来望んでいたのは、「コーヒーを飲みながらゆったり研究できる大学図書館」なのである。ただ、「ほん和かふえ。」は大学の休みの間は閉店してしまうから、私の理想はまだ実現していない。

\*ウィスコンシン大学マディソン校のメモリアル・ライブラリーの様子については、拙稿「マディソン雑感—地方都市のなかから見たアメリカと東アジア」（『東方』301,2006）に書いているので、興味があればお読みいただきたい。



ウィスコンシン大学マディソン校のメモリアル・ライブラリー。屋前なので、周辺にフードカー（屋台）が出ている。（2005年8月撮影）

## 金沢大学附属図書館中長期ビジョン

平成25年11月29日

大学とともに世界と地域に生きる知の前衛たちの図書館。われわれは、世界最先端の学術情報の受発信を担い、学習支援空間を強力に展開し、資料の電子化を可能な限り進める未来型の図書館をめざす。

※中長期ビジョンを実現するための6つの戦略

### 1 最新の学術情報を受発信する機能の強化

学術研究の基盤となる電子ジャーナルの安定的確保と、機関リポジトリの一層の拡充を最優先課題として取り組む。

### 2 「自学自習」の理想を追求する学習支援センターとしての機能強化

共通教育、専門教育、大学院教育の教育組織及び教育内容と緊密にリンクした新たな学習支援の仕組みを創出するとともに、ラーニングコモンズ等の学士課程及び大学院教育のための学習スペースを整備拡充する。

### 3 蔵書電子化の推進

電子的資料の積極的な購入や蔵書の電子化を可能な限り着実に進め、一層充実した「電子化図書館」をめざす。

### 4 資料保存基準の見直しと他図書館との収蔵共有化

長期収蔵に関して新たな基準を作成し、公共図書館及び大学図書館との資料の共有化を積極的に図る。

### 5 地域の公共図書館および大学図書館との連携強化

地域住民の生涯学習を支援する空間を積極的に提供し、他大学図書館との相互の連携事業を一層高いレベルで行い、「地域に生きる新たな図書館の時代」を切り開く。

### 6 図書館員の新たな分野での能力開発

図書館職員は旧来の任務の常識を一新し、教育、広報、企画、運営等の新たな任務を積極的に果たすべく、自身の能力を格段に高める。

## 金沢大学附属図書館短期アクションプラン

平成25年11月29日

### 1 最新の学術情報を受発信

- 第Ⅲ期中期目標・中期計画期間に研究基盤となる電子ジャーナル等の学術資料を整備するため、新たな購入方針及び計画を策定する。
- 本学紀要論文は電子化を旨とし、広く学術刊行物に掲載された論文等の機関リポジトリへの登録義務化をめざし、研究成果の登録件数を増加させ、より情報発信を推進する。

### 2 学習支援機能の強化

- 留学生を含む学生支援の担当部署や、大学院生も含めた学生との連携を密にし、求められている新しい学習支援の仕組みを案出する。
- ラーニングコモンズを自然科学系図書館に整備する。そのための学生等のニーズの把握に努め、整備のたたき台とする。

### 3 図書館が所蔵する一般的資料の電子化の推進

- 電子図書を購入や既存資料の電子化を推進するとともに、財産管理等の在り方に関する問題点を洗い出し、所蔵する一般的資料の電子化を促進するための実施方針を策定する。

### 4 図書館資料の収蔵計画の策定

- 収蔵スペースの狭隘化に対応するため、廃棄、電子化の推進、書架の集密化を推進するとともに、石川県内、北陸三県、東海北陸地区の他図書館との資料の共有化等を検討し、資料の長期的な収蔵計画を策定する。
- 蔵書目録未登録図書（旧第四高等学校図書、旧工業専門学校図書等）の保存について検討を進めた上で、遡及入力の実施計画を策定し推進する。

### 5 地域の公共図書館及び大学図書館との連携強化

- 石川県内の公共図書館及び大学図書館等との利用券の共通化、共同でのシンポジウム開催等、地域と連携した図書館活動の底上げを図る。
- 石川県内の大学図書館を先導し、教育研究の拠点である図書館のあり方に関する講演会、シンポジウム、研修会等、現状のレベル（相互貸借や相互案内等）以上の連携を目指す。

### 6 新たな分野での職員の能力開発

- 専任の特任助教のもと、図書館職員の能力強化を行い、情報リテラシー関連の指導及び企画に関する能力の向上を目指すとともに、新しい教育支援（ビブリオバトル、ライティング指導等）にも積極的に参画する。



## 「大日本文教研究院」の表札

松田 章一（前鈴木大拙館館長）

「暁烏文庫」の寄贈者である暁烏敏は、還暦を迎える前年の昭和10年、自分の信仰と学術の恩人たちへの感謝のために「大報恩会」という法要と講演会の開催を発願した。聖徳太子、釈迦、親鸞、蓮如、清沢満之、両親などを挙げ、昭和11年4月に、28名の国内の著名な信仰者や学術研究者を講師に招いて、一週間にわたる法要と講演会であった。

同時に「大日本文教研究院」設立の発願もした。いま白山市明達寺境内に建つ臘扇堂の場所が建設予定地だった。円筒形、地下一階、地上三階建てで、周囲の壁へ放射状の棚に、若い頃から収集した三万冊の蔵書（当時）「香草文庫」を架蔵する設計図も出来ていた。

昭和12年夏に、とりあえず名古屋のある寺の5間に12間、2階建ての建物を移築し、和協寮と称し自坊中に溢れていた図書の一部を取めた。しかし文教院の設立構想は不発に終わった。理由はよくわからない。

昭和22年石川師範が学芸大学設立に伴う蔵書の必要のため、暁烏の「香草文庫」の寄付を依頼してきた。「飲まず食わずに買い集めた蔵書」だったが、そっくり寄贈することにした。石川師範では、一口百円、総額五百万円の資金募集をし、弥生町の校地内に石造二階建の書庫や閲覧室を用意して「暁烏文庫」として採納した。（後昭和24年金沢大学に移管、三十間長屋に納められた。）

写真の「大日本文教研究院」の表札は、発願の折に書かれたものである。昭和36年以後その所在が不明であったが、暁烏の門弟西村見暁師が保存し、後その門弟谷田暁峰師の手許に渡った。暁峰師もまた逝去されたので、同夫人より先般金沢大学へ寄贈されたものである。昭和10年、暁烏発願以来80年の歳月を経て、ようやく表札と蔵書が共に揃ったもので、慶賀すべきことと思う。



## 暁烏文庫について

石川県白山市北安田町浄土真宗大谷派明達寺元住職、暁烏敏師旧蔵の図書。各分野に渡る約5万冊の蔵書であり、このうち13,500冊が仏教関係図書。

\*暁烏文庫の由来、及び沿革については、附属図書館（中央図書館）Webサイト

「貴重資料・文庫」→「特別コレクション」をご覧ください。

[http://library.kanazawa-u.ac.jp/clib/index.php?page\\_id=39](http://library.kanazawa-u.ac.jp/clib/index.php?page_id=39)



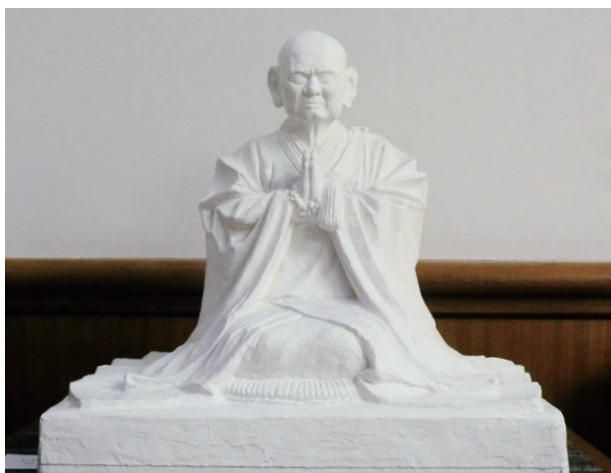
暁烏文庫（地階・保存書庫）



暁烏文庫蔵書票

よみたしとあつめしふみをのちにくる  
ひとにのこしてやすくよをさる 敏

## 暁烏敏座像 / 山本力吉 作（1953年制作）



本坐像は、山本力吉（やまもと りききち）（1898-1977）氏が、暁烏敏師から師の自坊である明達寺蠟扇堂に納める自身の木彫坐像の制作依頼を受け、石膏で試作した模型です。木彫坐像は暁烏敏師の師である宗教家清沢満之像とともに、1954（昭和29）年、明達寺蠟扇堂に安置されました。

作者の山本力吉氏は石川県鶴来町（現白山市）出身の木彫家で、人物像のほか寺社の動物像などの制作を手がけました。昭和11年に第1回帝国美術院展、再興第23回

院展初入選後、院展や日展に作品を出品し、また、金沢美術工芸大学の講師も勤めました。

本試作品は、ご子息の山本健太郎氏が力吉氏のアトリエを整理中に見つけたもので、松田章一先生の紹介により、暁烏文庫が置かれている本学附属図書館に寄贈いただきました。ご子息によれば、高校生のときに石膏像を携え明達寺に赴く力吉氏に同行されたとのことでした。

（情報サービス課長 村田 勝俊）





山本 英輔 先生  
(人間社会研究域学校教育系 教授)

「哲学者による随筆集」

平成26年7月24日～ 中央図書館で展示中



第16回

教員から教員へ、リレー形式で続いている教員おすすめ図書コーナーは、今回で第16回を迎えました。今回バトンを受け取ってくださったのは人間社会研究域学校教育系の山本英輔先生です。

私の専門は哲学です。研究活動はもっぱら本を読むこととなります。哲学の本が面白いと思って、もう何十年そんな研究生活をしているのですが、しかし何十年たっても、哲学の本は難しいものだと感じます。哲学書を読むには、忍耐と修行がいるのです。とくに古典とされる本は、論理の構造を辿るだけでなく、一つ一つの言葉を、思想史的背景も理解しながら、綿密に理解しなくてはなりません。

こうした作業に疲れたとき、随筆のような文章を読むと気分転換になります。作家の随筆もいいですが、哲学者が書いたものにも、なかなか味わい深いものが沢山あります。そこで今回、哲学を専門としない学生の皆さんに向けて、哲学と哲学者なるものを知ってもらうのにいい随筆集を、10冊ほどピックアップしてみました。コンセプトは、普段授業では紹介しないもので、第1級の哲学者が書いた、しかし肩の凝らない、寝ながら(あるいは電車の中で)読める随筆集です(ただし、中には分厚いハードカバーのものもあって、寝ながら読むにはちょっと腕に力が要りますが…)。あと、いずれの哲学者も読書の達人で、読書論についての興味深い随筆もありますので、注目して読んでみて下さい。

ところで「随筆」と言えば、英語やフランス語の「エッセイ」に対応させられていますが、英語やフランス語の「エッセイ」は、元来「試み・試論」と訳されるもので、日本語の「随筆」でイメージされるものよりも硬質な散文が多いのです。モンテーニュやルソーの作品はあまりにも有名ですが、イギリスのジョン・ロックの『人間知性論』(An Essay concerning Human Understanding)なども「エッセイ」で、これなどはもう浩瀚な大論文です(ちなみに、西洋のエッセイの系譜と分析に関しては、P. グロード/J-F. ルエット『エッセイとは何か』下澤和義訳、法政大学出版局、2003年という本が参考

になります)。

先ほどのコンセプトで選ぶとすれば、どうしても西洋よりも近代日本の哲学者のものばかりになってしまいました。いろいろ要因はあるのですが、『中央公論』や『改造』をはじめとする数々の雑誌や出版社が発行する小冊子の存在が大きいに思われます。日常生活の出来事や回想を題材にした小品を一般読者向けに書くように、出版社が哲学者に求めてきたのでしょうか。あるいは、これは江戸や中世に遡る文人の文化的伝統によるのだと言えるかもしれません。いずれにしても、大学での課業から少し離れて、これらの随筆集によって読書そのものを楽しんでほしいと思います。

	書名 著者、出版事項
1	ケーベル博士随筆集 久保勉訳編、岩波書店、1957.11
2	西田幾多郎随筆集 西田幾多郎著、上田閑照編、岩波書店、1996.10
3	埋もれた日本 和辻哲郎著、新潮社、1980.2
4	九鬼周造随筆集 菅野昭正編、岩波書店、1991.9
5	読書と人生 三木清著、新潮社、1974
6	幸福論 ラッセル著、安藤貞雄訳、岩波書店、1991.3
7	思惟の経験から マルティン・ハイデッガー著、東専一郎、芝田豊彦、ハルトムート・ブフナー訳、創文社、1994.7
8	田中美知太郎全集(増補版)第8巻 加来彰俊[ほか]編、筑摩書房、1988
9	廣松渉哲学小品集 小林昌人編、岩波書店、1996.8
10	自己と世界 渡邊二郎著、高山守[ほか]編、筑摩書房、2011.8

おすすめ図書紹介文の全文は、展示コーナーの他に、図書館Webサイトの次のページでもご覧いただけます。  
[http://library.kanazawa-u.ac.jp/index.php?page\\_id=191](http://library.kanazawa-u.ac.jp/index.php?page_id=191)

●第15回「キャンパス・ノベルと大学教員－知られざるおじさん・おばさんの生態学(人間社会研究域歴史言語文化学系・佐藤文彦先生)」は医学図書館で展示中です。

中央図書館

# KULiC-α 活動報告

2014年4月～7月

## オープンスタジオでの活動

### ワークショップ、セミナー等の開催

- 6月24, 25日(計3回)  
レポート作成基礎講座  
<今年度から30分のコンパクト  
コースに変更>



お昼休みを利用した  
ブックラウンジでの講習会

## ブックラウンジでの活動

### ブックラウンジでのイベント

- 5月21日 EU Cafe2014  
「ユーロ誕生15年 危機の沈静化と今後の革新」
- 5月28日, 6月18日, 7月23日 ビブリオバトル



今年で5回目を迎えたEU Cafe

## ギャラリーαでの展示

- 4月7日～4月25日 資料館新歓展「学生たちの肖像」(資料館)
- 4月26日～4月30日 「進級展」(学校教育学類美術専修)
- 5月9日～5月25日 EU資料展「EU加盟国へ留学したら」
- 6月2日～6月16日 「資料館の死角」(金沢銀月旅団)
- 6月19日～7月4日 「KuLOs×dot.Uバン格拉ディッシュ写真展」  
(KuLOs,dot.U)
- 7月7日～7月11日 企画展「ART MUSEUM?」(資料館)
- 7月12日～8月8日 「AO展」(クリエイティ部)



## 図書館学生ボランティア とぼらニュース

### [今期の活動]

- ・展示「今こそ、金沢めぐり」(5/27～6/17)
- ・選書会 (4/22,6/3,7/1)



金沢めぐりのおススメコースを提案。  
とぼらスタッフのおすすめポイントも手書きで作成しました。

「とぼら」は金沢大学図書館学生ボランティアの愛称です。図書館をもっと学生が楽しめる場所にするための企画・運営を行っています。

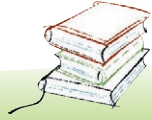


新年度になって新しい仲間も増えました。毎週火曜日のお昼休み(12:00-12:30)、中央図書館3階オープンスタジオで定期ミーティングをしています。興味のある方は、ふらっと寄ってみてください!

目印の札→







# 図書館

# トピックス

## 4/1 金沢市図書館及び金沢美術工芸大学附属図書館のカード共有化事業を開始

3月25日に、金沢市立玉川こども図書館において、3館の図書館長によりカード共有化事業の覚書が取り交わされました。これにより、金沢市図書館、または金沢美術工芸大学附属図書館の利用券を持つ市民は、附属図書館の窓口で所定の手続きを行えば、その利用券を使って、貸出サービスを受けることができるようになりました。

## 大学・社会生活論, 情報処理基礎

新入生を対象とした科目「大学・社会生活論 (4月9日~5月13日)」で1コマ、「情報処理基礎 (5月12日~27日)」で1~2コマ、図書館職員による授業を行いました。授業では、図書館の基本的な利用方法をはじめ、資料の探し方や基本的なデータベースの検索方法の説明と実習を行いました。



## 各館でも文献検索講習会などを開催

図書館職員や外部講師による利用説明会や講習会も開催しています。ゼミ、学類、授業単位で、内容を相談しながらきめ細かなサポートを行っています。



5/16 SciFinder講習会



4/30, 5/1 留学生オリエンテーション

## 5/13 EU講演会 中央 「The future of the EU-Japan Partnership : EU-日本パートナーシップの将来」

2014日・EUフレンドシップウィークイベントの一環として、講師に駐日欧州連合通商部一等書記官、ブルーノ・ジュリアン=マルヴィ氏をお迎えしました。市民も含め、約50名の参加がありました。



## 5/29-30 第7回ブックリユース市 中央

今回は、なるべく多くの方に参加のチャンスがあるようにと、各日とも12時半、13時半、14時半の3回にわけて図書を出品しました。2日間を通し、1,950冊のうち、1,257冊が新しい持ち主へと引き取られていきました。

## 6/4 クイズ抽選会 中央

### こだま183号のパズルの答え 「ブックラウンジ」

厳正なる抽選の結果、古畑附属図書館長が引き当てた20名の方には、「ほん和かふえ。」のほん和かサンドセット引換券を進呈しました。



## 資料展示

### 中央図書館

- 「図書館の本をPOPで展示 (第2期) : 平成25年度「中等国語科教育法A」受講生成成」 (3/28~4/18)
- 「EU資料展: EU加盟国へ留学したら」 (5/9~5/25)
- 「米澤穂信氏著作展示: 山本周五郎賞受賞記念」 (6/10~6/19)



### 自然科学系図書館

- 「学術雑誌を読もう」 (4/7~5/30)
- 「海」 (7/1~8/5)



## 編集後記

4月発行の新入生特集号のパズルには、402名という編集部予想を大きく上回る応募がありました。回答とともに寄せられた意見には、2年生以上の方からも「知らないことがたくさんあった」「いつもは使わない他キャンパスの図書館に行ってみようと思った」といった内容のものが目立ちました。授業や、各種広報でいろいろお知らせしているつもりですが、なかなか皆さんまで届いていないということを痛感しました。ともあれ、こだまも意外に役立つんです。図書館Webサイトにも掲載しています。年3回の発行です。風物詩と思って読んでいただければ幸いです。

### 広報委員会メンバー

村田勝俊 野田晶子 松田真樹 川井奏美  
新家左希子 香川文恵 多田千紘 押見智美

## 金沢大学附属図書館報「こだま」第184号

平成26年7月31日発行 発行: 金沢大学附属図書館  
編集: 広報委員会 印刷: 株式会社 橋本確文堂  
〒920-1192 金沢市角間町 TEL: 076-264-5200  
E-mail: etsuran@adm.kanazawa-u.ac.jp

\*この印刷物は再生紙を利用しています。